

久留米の自然



久留米の自然 111号 2011年1月1日

出土した編製品 平成15年～16年 国分町正福寺遺跡の発掘調査 撮影：久留米市

湧水池の縄文遺跡

山口 淳

平成15年から16年に、国分町正福寺遺跡が発掘調査された。バイパス工事に伴う調査で、縄文時代中期から晩期の遺跡であることが分った。

この地域は昔から隣接の日渡地域の縄文遺跡で知られていたが、一方、明星山からの扇状地末端の伏流水に恵まれた土地柄でも著名である。今は無くなったが、国分の川苔は名産として知られていたし、この遺跡のすぐ東に位置する白川公園地下には、戦前、陸軍が豊富な地下水を利用して水源とした貯水槽が今も残されている。古賀幸雄先生は、本紙に連載された筑後川雑記の中で久留米市誌を引用しながら、池町川・筒川・金丸川の水源地がこのような豊かな自然湧水にあったことを書かれていた。

話は正福寺遺跡に戻るが、この遺跡は根入川の水源地の一つであった湧水地点の低湿地と、それに接した丘陵上の遺構から構成されている。低湿地遺構に編製品や極く多量の堅果類（イチイガシワ・クヌギ）が出土した。現時点では、湧水を利用して穴に堅果類を貯蔵し、編み製品は湧水による穴の崩落を防いでいたものと考えられている。国分の湧水利用の最も古い例となった。報告書の中では、昔は湧水を由来とするため池があった聞き書きや、発掘中も湧水で崩落が起こったことが記されている。

今も国分の路地を通ると湧水を起源とする清流が流れているが、生活からは随分と離れていったようである。

久留米市の蝶44

ウスイロコノマチョウ

国分 謙一

本来は久留米市の蝶としてはふさわしくないかも知れませんが、毎年温暖化現象であると言われ、実際に沖縄等の南方に棲息している蝶の北上が著しく各地で分布の拡大が報告されています。ウスイロコノマチョウもその中の一つで、20年か30年後の図鑑等には久留米市の蝶として取り扱われているかも知れません。

会誌62号のクロコノマチョウとソックリですが、羽の色彩がやや淡いので「淡い色の木の間蝶」と名付けられました。ウスイロコノマチョウは学名の基礎となったリンネが1758年に発表した物で、古くから知られていたことが分かりますが、日本の研究者の中でクロコノマチョウと正確に区別されたのは、そんなに古くなくまだ60年ほどしかたっていない。

図鑑を見ますと棲息範囲は非常に広く、太平洋の小島から遠くはアフリカまで生息しているようで、近隣諸国との区別ができません。

久留米市での確実な記録は1981年に採集されたのが最初です、その後は時々報告があります。

迷蝶（偶産蝶）と土着種との違いとは？

会誌53号の「迷蝶（偶産蝶）について」と合わせて読んで頂けたらと思います。

昆虫図鑑等を見ると迷蝶と土着種の区分は簡単なようですが、実際は簡単ではありません。一般に近隣諸国に棲息し、日本では時々しか発見できない物は確実に迷蝶と誰もが疑うことはありませんが、日本列島は沖縄から北海道まで長いので、各地方で生息している蝶も違いが出てきます。今のところ九州本島では、迷蝶とは奄美大島から南には普通に棲息している蝶で、それ以外では時々しか見ることが出来ない蝶を迷蝶としています。

冬の気温低下に耐え生き残る物は土着種で、それ以外は迷蝶としても良いかも知れませんが、気温は毎年同じではありませんから、棲息可能範囲は変動しています。例えば、ある年は越冬するが別の年は全て死滅して越冬できない物はどう取り

扱うのか？、また植物も同じですが、冬だけとは限りません夏の暑さに耐える事が出来るかも問題になります。高山植物や高山蝶は夏の気温に耐えられないので寒冷な高山にしか生息していないと思われています。

このような気温の変化によって越冬できるかできないかの区別を調査できるのは、その地に住んで継続して調査できるアマチュアの出番です。久留米市でも多くの種類がいますが本当に土着しているのか、証拠は？、証明されているのかと聞かれたら、実際のところ判らないと回答するしかありません、普通に見られるから、なんとなく、図鑑に書いてあるから等で決め付けているのかも知れません。

貴方の観察が図鑑の記述を変えるかも知れませんので、是非とも自然観察等で観察した事実を各地の自然関係の団体が発行している雑誌等に発表される事を望みます。(久留米市での夏のモンシロチョウはどうやって過ごしているのでしょうか?)

ウスイロコノマチョウは久留米市では迷蝶となることは確実です。成虫で冬を過ごしますが、日本各地の同好者が観察して春に成虫が鹿児島でも今までに数回しか見られないからです、確実な土着地は奄美大島周辺でその付近が年によって変動する境界となっているようです。(福岡県で春に越冬した成虫を発見すると図鑑の記述を変える事になります。)

久留米での観察

久留米市では何処でも見る可能性があります。特に幼虫の食草であるイネ科植物があって、樹液や発酵した果実等がある場所を重点的に調査すると見られるかも知れません。山裾の柿等の果樹園周辺では8月から10月頃は可能性が大きいのでそのような場所を調べて下さい、また、時間も大切に夕方の日が落ちる少し前頃に活発に飛び廻り、昼間は薄暗い草陰でじっとしていますから発見は困難です、ただし見るだけではクロコノマチョウとの区別が非常に難しいので一度捕らえてから確認の方が良いと思います。

高良川流域のキノコ(その13)

角 正博

次に高良山系および高良川流域に見られるスッポンタケ目のキノコについて報告します。

24. サンコタケ(三鉬茸)(写真1)

Pseudocolus schellenbergiae

まずアカカゴタケ科では、サンコタケ属のサンコタケがこの地域では初夏～8月中旬にかけて、稀に見られます。サンコタケについては、すでに『久留米の自然』第93号(2006年7月1日発行)の巻頭で報告しました。子実体基部には、白色の根状菌糸束があります。子実体は、幼菌の時は白色の卵形です。成熟すると、外側の殻皮が裂開して托(柄)部と托枝(腕)が伸長します。托(柄)部は、下部の卵に近くなるほど白色で、托枝(腕)より短く中空です。托(柄)部の先は分かれています、そこからは、托枝(腕)と呼ばれています。サンコタケの場合、托枝(腕)は通常3本に分かれ、美しい橙赤色および橙黄色を帯び、頂部で接合します。このように色は濃淡2型が見られ、橙赤色型および橙黄色型と呼ばれることもあります。胞子を形成する基本体(グレバ)は、褐色～黒褐色で托枝(腕)の内側に付着し、胞子が成熟すると粘液化して強烈な腐臭を放ちます。この臭いで昆虫(ハエ等)を誘い、寄ってきた昆虫の体に粘液化した胞子を付着させ、運んでもらうという虫媒菌です。和名の「サンコ」とは、仏教の法具である「三鉬杵(さんこしよ):通称〔三鉬〕」の形に、三本の托枝(腕)が似ていることに由来します。

25. スッポンタケ(鼈茸)(写真2)

Phallus impudicus

次にスッポンタケ科ではスッポンタケ属のスッポンタケが、スギ林内やシイカシ林の林縁の地上に、11月下旬頃に見られます。スッポンタケも幼菌は白色、類球～卵形で、基部から白色の根状菌糸束が伸びています。成熟すると頂部が裂開し、傘と柄が伸長します。柄部は白色で円筒形、中は中空になっています。傘は円錐状で、表面には白～淡黄色の網目状の隆起があります。傘には、

暗緑色の粘液化した悪臭を放つ基本体(グレバ)をつけ、頂部は開孔するかややくぼんでいます。このほか地元の人の話によると、キヌガサタケ属のウスキキヌガサタケらしいキノコも見られるようですが、筆者はまだ確認していません。さらに、晩秋に腹菌垂綱の1種?がシイカシ林内の地上に発生します。子実体は球形～偏球形でピンク色、オレンジ色の菌糸束が特徴的です。



サンコタケ(写真1)



スッポンタケ(写真2)

生き物に魅せられて その49

粘菌の巻 松永 紀代子

庭の片隅に落ち葉溜りを作っている。2010年の10月末、小学校の出勤講座で「落ち葉の中の生きもの」というのをやっていたので、何か見せるものがないかと探していた。ふと朽木についた黄色い粘菌が目にとまった。

ああ、これがいい。動いたり、姿を変えたりするキノコなんて、面白いに違いない。そう思いながら、ゴムのようなべたべたとした感じのものを朽木ごと、暗くしたケースに閉じ込めて、学校に持っていった。

「生きてるキノコだよ。エサを求めて少しづつ動くんだ」と子どもたちに見せた。その時に、端っこを持ってみたら、ガムのように、細い糸になってビヨーンと伸びた。あれ？少し粉っぽいかな。学習が終わり、ケースに閉じ込めて持って帰った。

さあ、元の場所に戻そうとケースのふたを開けると「ない!」。黄色い粘菌は消えていた。黒い粒々のものがあるけれど、はて、これは元々あったものだろうか？まさに姿を変え行方をくらましたキノコだった。

第50回昆虫祭

国分 謙一

10月31日の日曜日に、久留米昆虫研究会恒例の昆虫祭が11時から橋田会長他、関係者20数名もの多数参加され、厳かに高良大社前広場の昆虫塔の前で開催されました。この蝶をかたどった昆虫塔は、1961年10月14日に久留米昆虫同好会（現、久留米昆虫研究会）発足10周年を記念して、研究や採集の犠牲になった昆虫を供養すると共に、高良山が何時までも昆虫の棲家となるような環境が維持されるよう願いを込めて建立された物であると共に、昆虫を記念した塔としては日本で最初の塔となるものであります。その後毎年設立された10月に昆虫祭が開催されるようになり今回で50回を迎えたわけでありました。

自然は広大で人間の知恵は自然環境の一部分しか知りえていません。高良山も古くから調査されておりますが全てが判っているわけではありません、昆虫はむろんの事、鳥や広い意味での植物の種類がどの位、どのように生息しているかも判っていません。まだまだ調べなければならぬので、私達の久留米の自然を守る会も微力ながら協力しないといけないものと思われまます。

ひととき 動物笑い話 その55

カレイなる変身 米田 豊

福岡県越前町の越前がにミュージアムで、水面より約20cm立ち上がって餌に飛び付く2匹のナメタガレイが人気を集めている。時には体を外らし過ぎて後方へ1回転するのもご愛嬌との事。海底生活のカレイがそこまで人に懐くとは驚きである。扁平な体なので水の抵抗が大きく、まず不可能だろうが、もし、これらのカレイが芸を仕込まれたイルカのように立ち泳ぎでバック出来ればそれこそ水族館の目玉になると思う。マンタのようにジャンプしたり、水面をバタフライや背泳をしたただけでも更に人気を得るだろう。その体型や体色から「華麗なる変身」は期待出来ないが、他の魚達から一目置かれることは疑いない。ただ芸を覚えて天狗になると、中にはうらやみから「なめたカレイだ」と非難されるかも。

※カレイはカレイ科に属する海水魚で、体が長卵形で左右に平たく、右（上面）側に2眼ある。本種は滑多鰓と書かれ、体表がヌルヌルしている。



2010年度昆虫慰霊祭（平成22年10月31日一日曜日）久留米市御井町（高良山にて）

昆虫祭での記念写真

福岡県指定天然記念物**八剣神社の大イチョウ****高山 美子**

1958(昭和53)年3月25日指定

所在地

福岡県遠賀郡水巻町立屋敷3丁目13番30号

樹高22.26m 幹周囲9.7m

推定樹齢約1000年

写真撮影日 2010年10月8日

撮影者 高山美子

遠賀川の堤防東側に立つ。その昔、海からのぼってくる舟や、石炭を積んだ川舟の目印になっていたろう。近くには遺跡もあり土器や剣が出土している。

小倉から長崎への肥前街道の宿場町木屋瀬宿の下流にそびえ立ち千年の風雨に耐え大勢の旅人の安全を見守って来たのであろう。

**高良川流域の地衣類 (その1)****角 正博**

1.はじめに

今回からときどき高良山・明星山系および高良川流域の地衣類についても少し紹介してみたいと思います。高良大社のような古い寺社には、さまざまな地衣類が生育しているからです。したがって久留米の地衣類相を調査しておくことは重要なことだと考えています。また環境指標としても重視されています。近年、中国から偏西風に乗ってやってくる大気汚染物質やそうした物質による酸性雨の問題が指摘されていますが、こうした問題で将来、地衣類が指標として果たす役割は大きなものがあると考えています。しかし、残念なことに将来の基礎資料となる久留米の地衣類相はほとんど研究されていません。このコーナーが将来の久留米の自然史のため一助になれば幸いです。



ウメノキゴケ

例会報告

第383回例会

筑後川観月会

大木 武彦

9月18日(土)午後7時から33名の参加者を
得て恒例の観月会をくるめウスで開催しました。
今回は司会を一ノ瀬誘子さんにお願ひしました。
最初は室内で講師の吉田哲磨先生に「木星のしま
模様」について、熊谷寿美子先生には「9月の星
座」についてのお話をさせていただきました。その
後、くるめウス玄関前の広場で夜空に輝く木星と
月を観察しました。木星のしま模様や月のクレー
ターが天体望遠鏡ではっきりと見え、参加者の皆
さんから歓声があがりました。また、別室では女
性会員の皆さんが抹茶とお菓子でおもてなしをし
ました。科学と風流のいい思い出をお持ち帰りい
ただけたのではないかと思います。

ただ、隣接する商業ビルの照明が夜空に映え、
観察の妨げになるので、次回は観察場所を移動し
たらどうかという意見がありました。



天体望遠鏡による観察

高野町 高田 明美

今回で2回目の参加でしたが星座のお話とか楽し
かったです。

山本町 半田 トミ子

今日はとても一日のつかれを取らせていただきあ
りありがとうございました。小学生の頃をおもいだし
ながら勉強させていただきありがとうございます。
又こんごもいろんなまよおしに参加させてい
ただきます。

山本町 日比生 若枝

初めて参加しました。普段ただながめている夜空
に今夜はあらためて感動しました。今迄考えても
いなかった星の名前ひとつでもきちんと覚える事
が出来て興味がわきました。来年のお月見又楽し
みにしています。有りがとうございました

山本町 池田 寛子

初めて参加しましたけど空に輝く星座のロマンに
ふれて心も宇宙大に広がり豊かな気持ちになりま
した。次回も参加させて頂きたく思います。



講師の吉田哲磨氏(右)と熊谷寿美子氏(左)

第384回例会

ネイチャーゲームと自然観察会

丸山 由紀子

10月17日(日)、久留米市生産流通課・くるめネイチャーゲームの会との共催で例会を行いました。当日はお天気もよく、バスでやって来た宮ノ陣小の学童保育所の親子56名を迎えて例会はにぎやかにスタートしました。ネイチャーゲームは自分自身の目や耳を使って自然を感じ、「おっ!」「なるほど・・・」と気づくヒントを与えてくれるゲームです。子どもたちは元気いっぱい「宝もの探し」のリストを手に、四季の森を登っていきました。ぴかぴかのもの、とげとげのものなど、森の中にはいろいろな「宝もの」があり、子どもたちの目のつけどころやおもしろい発想に、私たち大人も感心させられました。森林公園では、お弁当の後、「カモフラージュ」「フィールドパターン」というゲームを行いました。「カモフラージュ」とは植え込みの中に隠された人工物を見つけるゲームです。簡単そうにみえて、意外と気づかないものもあり、大人よりも早くクリアして得意顔の子どもたちもいました。

高良山の自然の中で、体を動かし、保護者と一緒におしゃべりをしながらゲームに参加し、おまけに自然観察もして・・・と子どもたちにとっても、楽しい一日になったことと思います。



ネイチャーゲームの様子

第385回例会

探鳥会

古賀 信夫

11月14日、快晴の空の下探鳥会が開催された。集合場所の高良内幼稚園駐車場で野鳥の特徴や観察の仕方などの説明を受けたあと出発となった。参加者各自フィールドスコープや双眼鏡を持参しての参加である。目は当然に上を向く。私はいえ毎度のことながらカメラ2台と三脚を持っての登山となった。いつも思うのであるが探鳥会に参加しても必ずと言っていいほど鳥の写真はとれない。相手は野鳥である。写真とるからじっとしていてくれと言っても通じる訳がない。その前に鳥の姿を見つけるのも一苦勞である。音でなんの鳥か判断しなければならない。野鳥の会のみなさんの音の感覚には感服させられる。それでも、最後の鳥あわせでは以下の鳥が観察されたと参加者より報告された。

ハイタカ、ジョウビタキ、ノスリ、シロハラ、キジバト、モズ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ウグイス、ハクセキレイ、アオサギ、セグロセキレイ、スズメ、ヤマガラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ハシブトガラス、エナガ、ホオジロ、カササギ、クロジ、ツグミ、メジロ、リュウキュウサンショウクイ 以上24種



ひたすら上を見る参加者

環境シンポジウム

「久留米のゴミゼロをめざす！」

橋田 沙弓

10月2日(土)1時半～4時まで久留米大学御井学舎のメディアセンターで、環境シンポジウム「久留米のゴミゼロをめざす！」を開催しました。久留米市は、宮ノ陣八丁島にごみ焼却炉の建設を計画していますが、これには様々な問題点があります。焼却施設から排出された有毒ガスや重金属等による土壌や地下水、農作物の汚染、健康被害の恐れ、地球温暖化の加速、溶融炉の火災、爆発事故。建設費は180億円、その他に維持管理費が年間10億円近くかかり、今でも赤字体質の市の財政を圧迫し、福祉や教育に回せるお金がますます少なくなる、などの問題点があげられます。

まず、福田洋一氏(市民オンブズパースンくるめ代表)が宮ノ陣八丁島にごみ焼却場を久留米市が選定してきた経過が報告された。次に司会とコーディネーターをかねて高橋謙一氏(弁護士)が各パネリストの紹介をされた。

①「溶融炉の多くの課題」

片井克美氏(環境建築士)

②「私たちの健康・環境・財政が危ない」

河内俊英氏(久留米大学)

【事例報告】他にある方法

大木町の生ゴミ有効利用と有機農産物

荒木フサエ(あーすくらぶ会長)

プラスチックの油化について

島松憲之(廃プラスチック油化研究会)

片井氏は甘木朝倉三井環境施設組合の破綻した大型ゴミ焼却炉について、ガス化溶融炉なんて要らない。システムの破綻(異常燃焼が多発、連続運転の欺瞞、ダイオキシン類の発生、安全性の不安等)、高騰する処理費など説明された。

河内氏は「ゼロウエースト社会(ゴミゼロ社会)実現のために」というサブタイトルの中で焼却施設は循環型社会のブレーキになる。ゴミ問題は環境問題であり、資源・エネルギーと経済の問題で

もある。日本ではいまだに焼却主義、推進政策である。拡大生産者責任(EPR)とデポジット制でゴミは減る。干し草をラッピングする技術で古紙もプラスチックも保管可能。堆肥化しない生ゴミは下水処理場を使ってメタン化できると話された。

【事例報告】ではあーすくらぶ荒木フサエ会長の日頃のエコ活動をしながら、大木町の生ゴミ有効利用とそれから得られる有機農産物について分かりやすく話された。次に、島松憲之氏は廃プラスチック油化研究会で長年の努力によって廃プラがA重油になることが話された。パネルディスカッションを通じて内容が深められた。質疑応答もあり、4時過ぎに終了。アンケートにも10数人の感想がありゴミシンポをやって良かったという結果であった。



会場の様子

久留米市の新ごみ焼却施設

建設中止へ6488人署名

2010年11月5日西日本新聞の朝刊の見出しに書かれている。久留米市が宮ノ陣町八丁島地区の農地に建設を計画している新ごみ焼却施設について、環境団体など3団体と建設予定地や隣接地の農家代表が4日、建設中止を求め、延べ6488人分の署名を橋原利則市長あてに提出した。

会員の皆様の署名活動ありがとうございます。

会員投稿

カゴノキ

若林 春美

大社の参道をゆっくりと、辺りを眺めながら登っていて、幾種かの鳥の姿を見かけなくなり、又、その声も聞こえなくなったなど思いながら、キンメイ竹林の前の踊場に立ち止まって、一息、ふと反対側の斜面に目をやった時、「アレ?!」と目にとまったものがありました。目を凝らして、錯綜する木々の幹の間に見た物は何と、「カゴノキ」でした。しかし、よく見ると似ているところもあるが、図鑑の記述とも、私をはじめ見たものとも、随分異なるので、本当にそうだろうかと思いましたが、何度か確認した結果、幹の所々にそれらしい様子が見受けられますので、今では、カゴノキにちがいないと思っています。

図鑑(牧野・S・25)によると『カゴノキ・クスキ科、一名、カゴノキ、カゴガシ、カノコガ。暖地に生ずる常緑の大喬木、高さ15m内外、幹は平滑にして、淡紫黒色をすれど円形の薄片となり、点々と脱落して、鹿の仔模様となる故、カゴノキの名あり、和名コガノキの意味不明・・・』とあります。

ここでいう暖地とは植物地理学上では、青森・秋田・岩手の3県を除く東北南部から鹿児島県の種子島と屋久島の間までの低地(標高2・300~4・500m)のことを指していると考えられます。

この木はこの広い地域に普遍的に生育しているのではなく、識る限りでは、和歌山城址、指月城址と大社の3カ所だけです。最初に見たのは、もう50年余りも前のこと、和歌山城址の径40cm余りもあると思われる大木が確か3本余り、それから10年以上も経って指月城址で、前者よりも可成小さいものが10本ほど、そしてこの大社の茂みの中の1本の3カ所だけです。これらの場所に共通する環境条件が気候条件の他に地形条件が考えられます。それは共に、太古には波静かな入江、或いは湾内に浮かぶ島か、湾に面した山裾で

あったと考えられる場所だということです。

今、一つは共に個体数が少なく、周りに後継樹となるべき、若い個体が見られなかったということです。私の見落としとしかもしれませんが。

この共通点の他に相違点があります。幹肌の様子です。和歌山城址のそれは、図鑑の記述の様に、幹肌は平滑で淡黒紫色で、小さな楕円形に剥離した痕跡は淡青灰白色の綺麗な様子で清涼ささえかんじるものでした。指月城址と大社のものは、共に幹肌は少し粗らく淡褐色で広楕円形に剥離した痕跡は同系色のより淡く、指月城址のものは大社のものより模様がよりはっきりとしていました。それが当初私に迷いおこさせた原因ではないかと思っています。

書き終えて、ふと思い出したことです。学生の頃、ゼミ室の片隅で皆と恩師を囲んでいつもの通り、お茶を飲んでいた時、恩師が、ポツリと「敗戦後間もなく、東京から大阪に来る時、列車が滋賀県に入ったと思われた時、それまで黄緑色の稲が突然、豊かな緑色に変わったんだよ。肥料を何も無い時は、地味の豊かさというものが、この様な形になって現れるのだネ・・・」



カゴノキ

《行事案内》

◇ 第387回例会：

総会・記念講演会

平成23年度の総会を行います。その後、記念講演会を開きます。テーマは最近関心が高まっているグラミン銀行についてその事情に詳しい古賀暉人氏に語って頂きます。皆さんお友達をお誘い合わせの上是非ご参加ください。

〔日 時〕：1月23日（日）

総 会 14：30～

講演会 15：30～17：30

講 師 古賀暉人氏

（新古賀病院・古賀病院21前会長）

テーマ 「グラミン銀行」

〔会 場〕：久留米市役所3F305会議室

〔参加費〕：無料

その後、酒菜「まつげん」（tel 0942-33-2517）で新年会を18：30～会費3000円参加希望の方はお申し込みください。

◇ 第388回例会：

筑後川春の野草を愉しむ会

春のいろいろな食べられる野草・薬草を食べて味わいます。野草を河川敷で摘み、皆で調理して安全で体に安心な野草で元気になりましょう。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：3月27日（日）小雨決行

〔集合・解散〕：9：00 14：00 くるめウス

〔参加費〕：400円 定員30名

〔持参する物〕：おわん、お皿、おはし、お茶

〔共 催〕：筑後川まるごと博物館運営委員会

◇ 第389回例会：

高良山バードウォッチング探鳥会

1年で一番野鳥の種類が多い繁殖の時期です。美しい鳴き声と姿を望遠鏡または双眼鏡でよく観察しましょう。どなたでも参加できます。

〔日 時〕：5月8日（日）雨天中止

〔集合・解散〕：10：00 15：00

御井小学校

〔参加費〕：無料

〔持参する物〕：持っている人は双眼鏡及び図鑑、弁当、お茶、筆記用具、歩きやすい軽装。

《事務局だより》

先の生物多様性名古屋会議では、人間の豊かな生活を保証し、健全な生態系を確保する目的で、生物多様性の損失速度を減少させるための緊急行動を起こす、「愛知ターゲット」が採択されました。ひるがえって、長年の久留米の自然を守る会の活動は、生態系保全の一翼を担ってきたものと誇れるし、今こそ大いに評価されてよいのではないかと思います。（大木）

ホームページもご覧下さい。

<http://kurumenoshizen.net/>

1. 会員異動

入会 吉田和子（久留米市）

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号112号は平成23年5月1日発行予定です。原稿の〆切は4月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）兼事務局会議は原則として奇数月の第1水曜日の19：00～21：00まで、えーるピア久留米2階談話室で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。

（3月2日、5月11日）

久留米の自然

平成23年1月1日 第111号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623（古賀）

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408